

Fight !

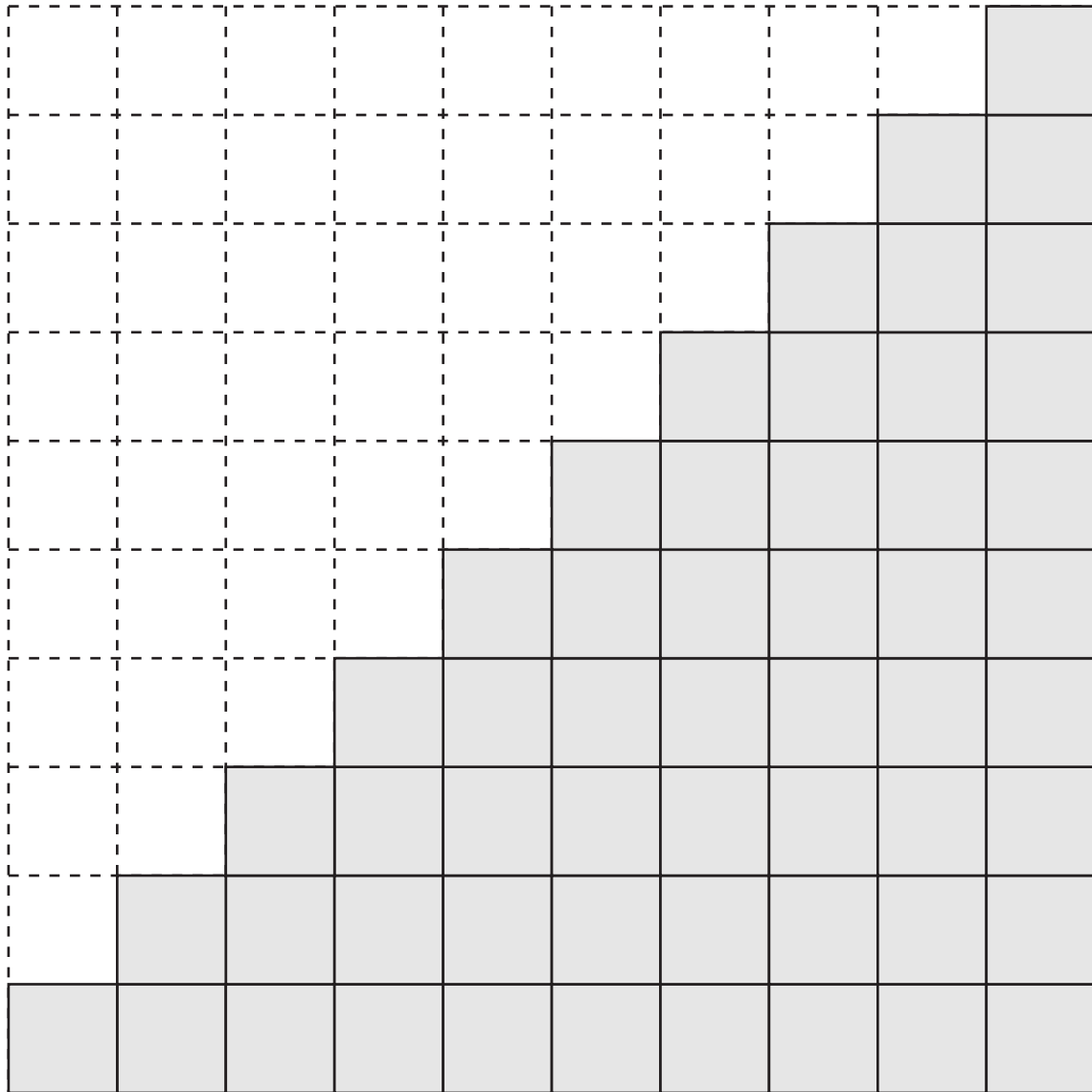


ロコモ 2 - 1

なまえ _____



を ぜんぶたすと、いくつになるかな。




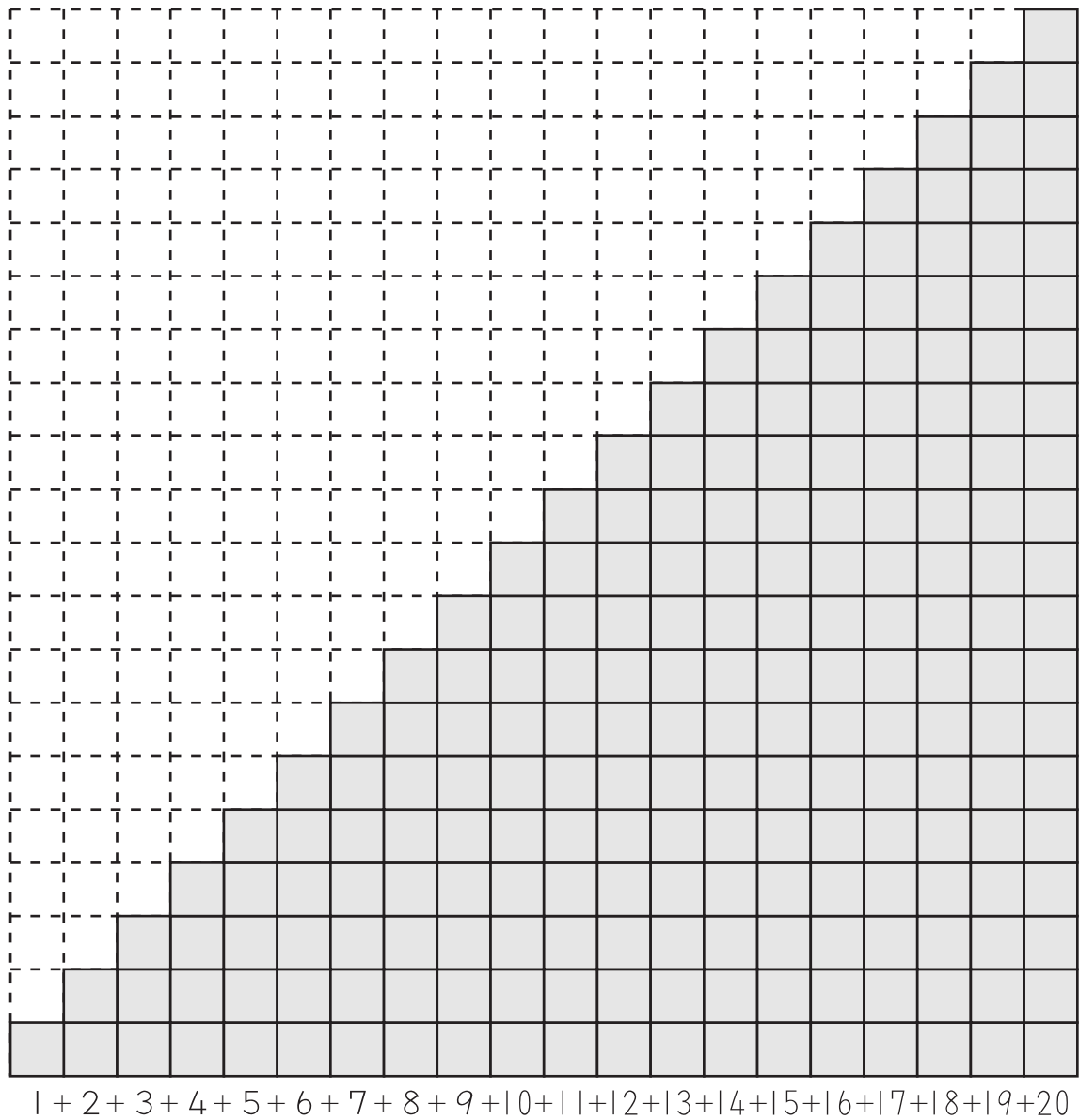
1 + 2 + 3 + 4 + 5 + 6 + 7 + 8 + 9 + 10

=

ロコモ 2 - 2

なまえ

 を ぜんぶたすと、いくつになるかな。



=

口コモ 2 - 3

せん
線でむすびましょう。

なまえ

もぬけの

かせ
風



やなぎ
柳に

ちょうちん
提灯



や
焼け
いし
石に

やつ
矢尽く



ゆみ お
弓折れ

から
殻



つき よ
月夜に

みず
水



口コモ 2 - 4

なまえ

せん
線でむすびましょう。

や いし
焼け石に

や つ
矢 尽 く



つき よ
月 夜 に

から
殻



やなぎ
柳 に

みず
水



もぬけの

かぜ
風



ゆみ お
弓 折 れ

ちょう ちん
提 灯



口コモ 2 - 5

せん
線でむすびましょう。

もぬけの殻

うまくかわすよ



やなぎ かぜ
柳に風

で
出て行ったあとだ



や いし みず
焼け石に水

ひつよう
必要ないね



ゆみ お や っ
弓折れ矢尽く

どうすることもできないよ



つき よ ちょうちん
月夜に提灯

これじゃ効き目が
ないね



口コモ 2 - 6

なまえ

せん
線でむすびましょう。

つき よ ちょう ちん
月夜に提灯

ちから
力尽きてどうすることも
できないこと



もぬけの殻

ねどこ いえ ひと に
寝床や家から人が逃げ去っ
てしまった後の様子



やなぎ かぜ
柳に風

すこ える じょ どりよく
少しの援助や努力ではまっ
たく効き目がないこと



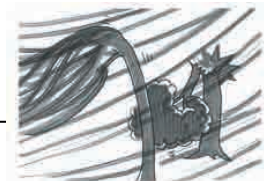
ゆみ お や っ
弓折れ矢尽く

あか つき よ ちょう ちん
明るい月夜に提灯をともし
ように不必要で無駄なこと



や いし みず
焼け石に水

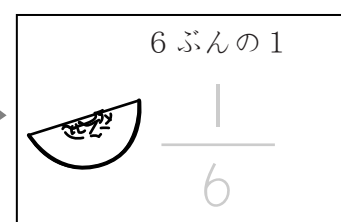
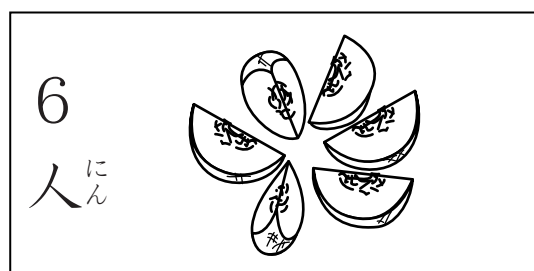
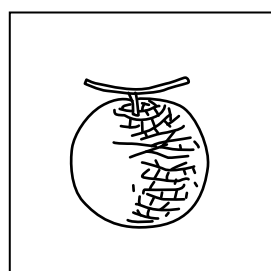
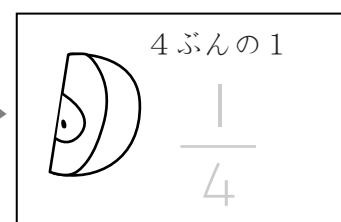
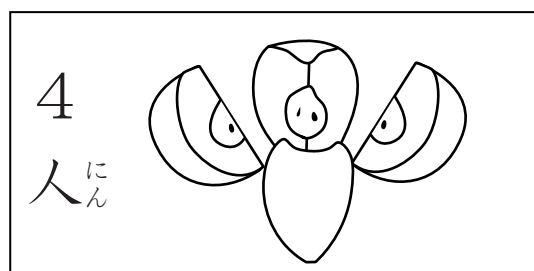
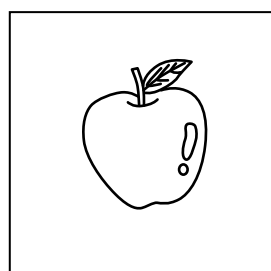
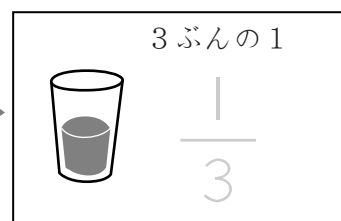
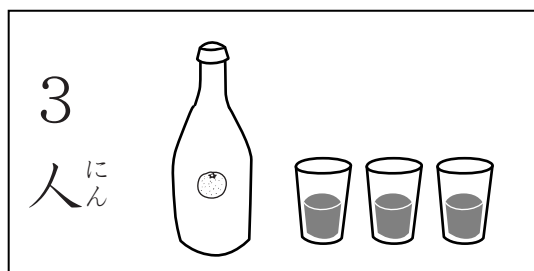
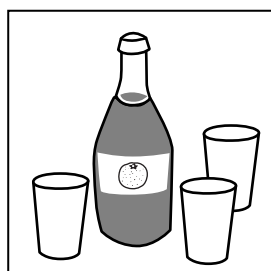
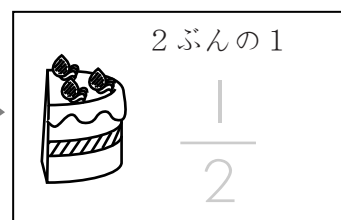
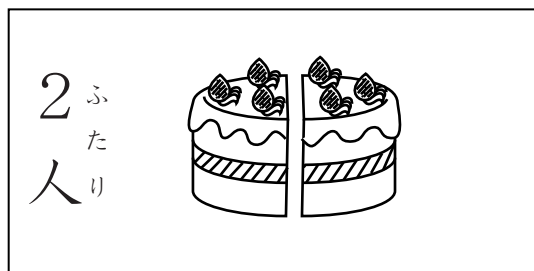
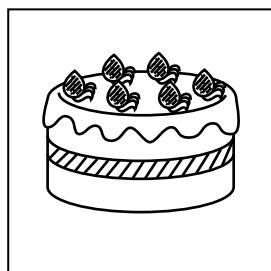
あい て こと ば
相手の言葉をたくみに受け
流すこと



ロコモ 2 - 7

なまえ

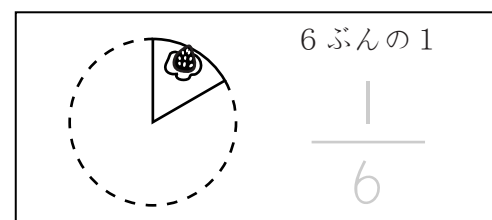
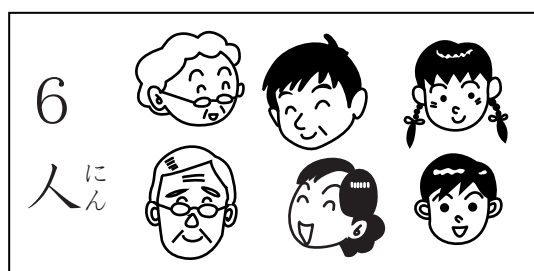
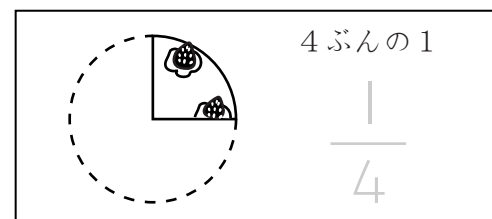
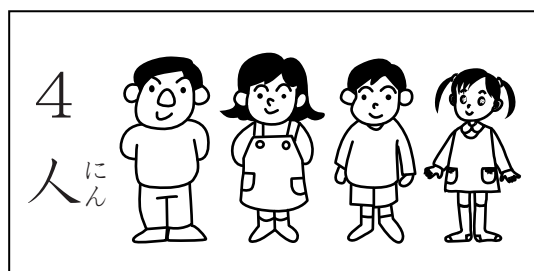
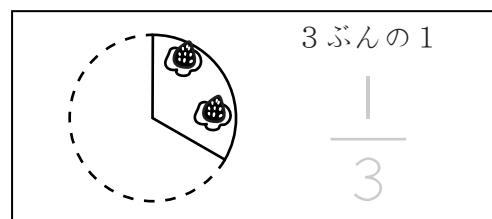
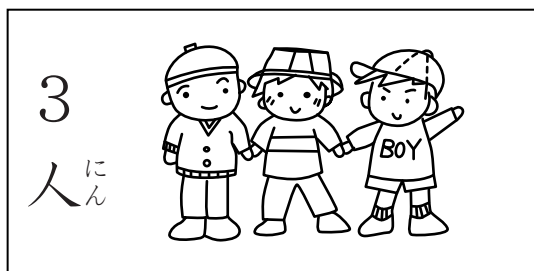
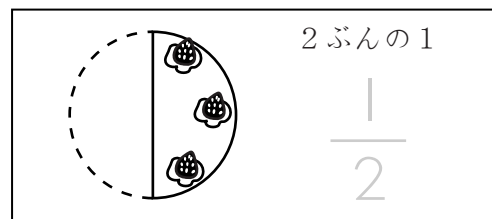
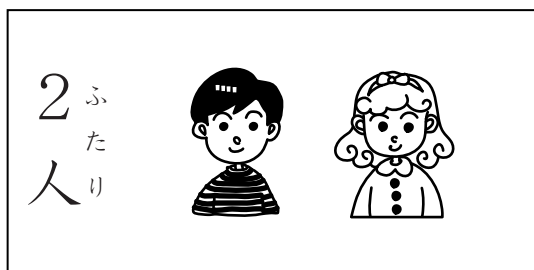
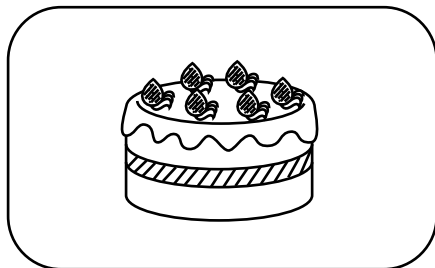
みんなでわけると、どのくらいの^{りょう}量になるかな。



口コモ 2 - 8

なまえ

ケーキをみんなで分けると、ひとりどのくらいの^{りょう}量になるかな。



口コモ 2 - 9

せん
線でむすびましょう。

なまえ

ゆき お
雪折れも

ゆき
雪がふうわり
ふわりかな



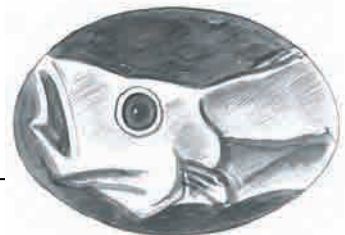
うまそうな

き
聞こえてくらき
よ
夜なるかな



こ
木がらしや

め ざし
目刺にのこる
うみ
海のいろ



口コモ 2 - 10

せん
線でむすびましょう。

なまえ

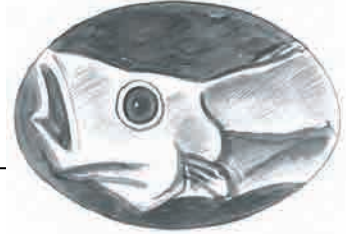
こ
木がらしや

き
聞こえてくらき
よ
夜なるかな



うまそうな

めざし
目刺にのこる
うみ
海のいろ

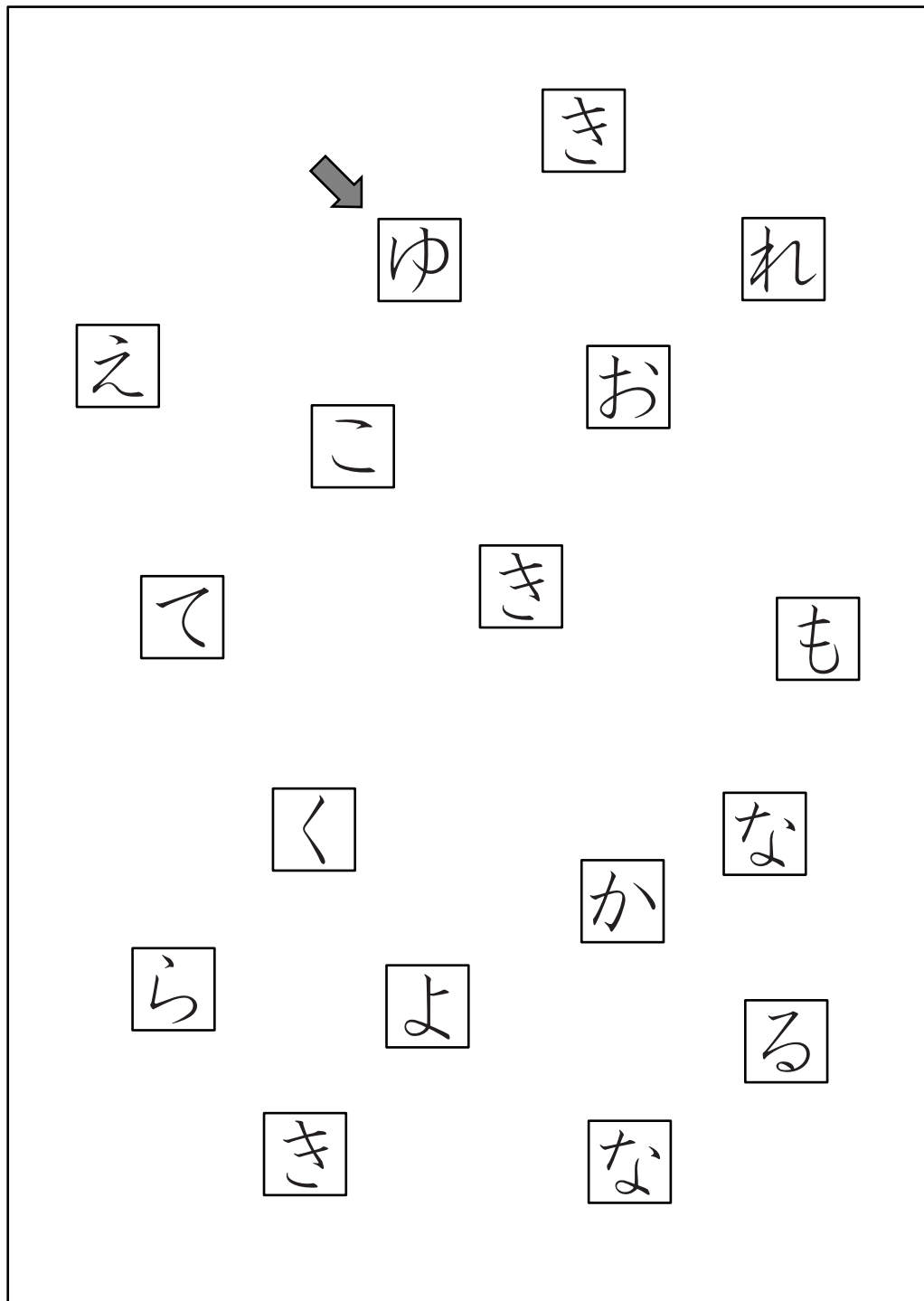


ゆき お
雪折れも

ゆき
雪がふうわり
ふわりかな



せん
線でむすびましょう。

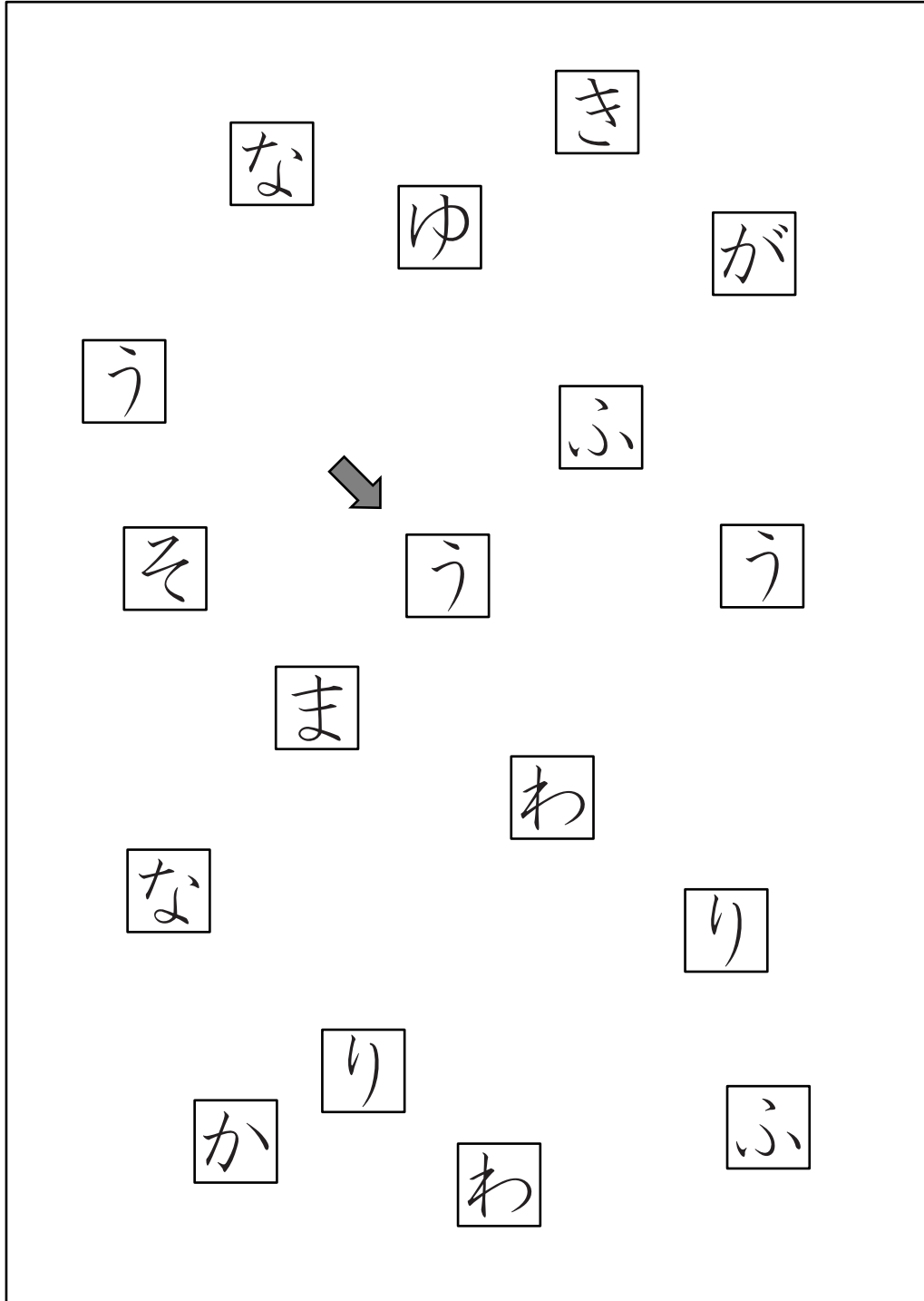


ゆきおれもきこえてくらき……

口コモ 2 - 12

なまえ

せん
線でむすびましょう。



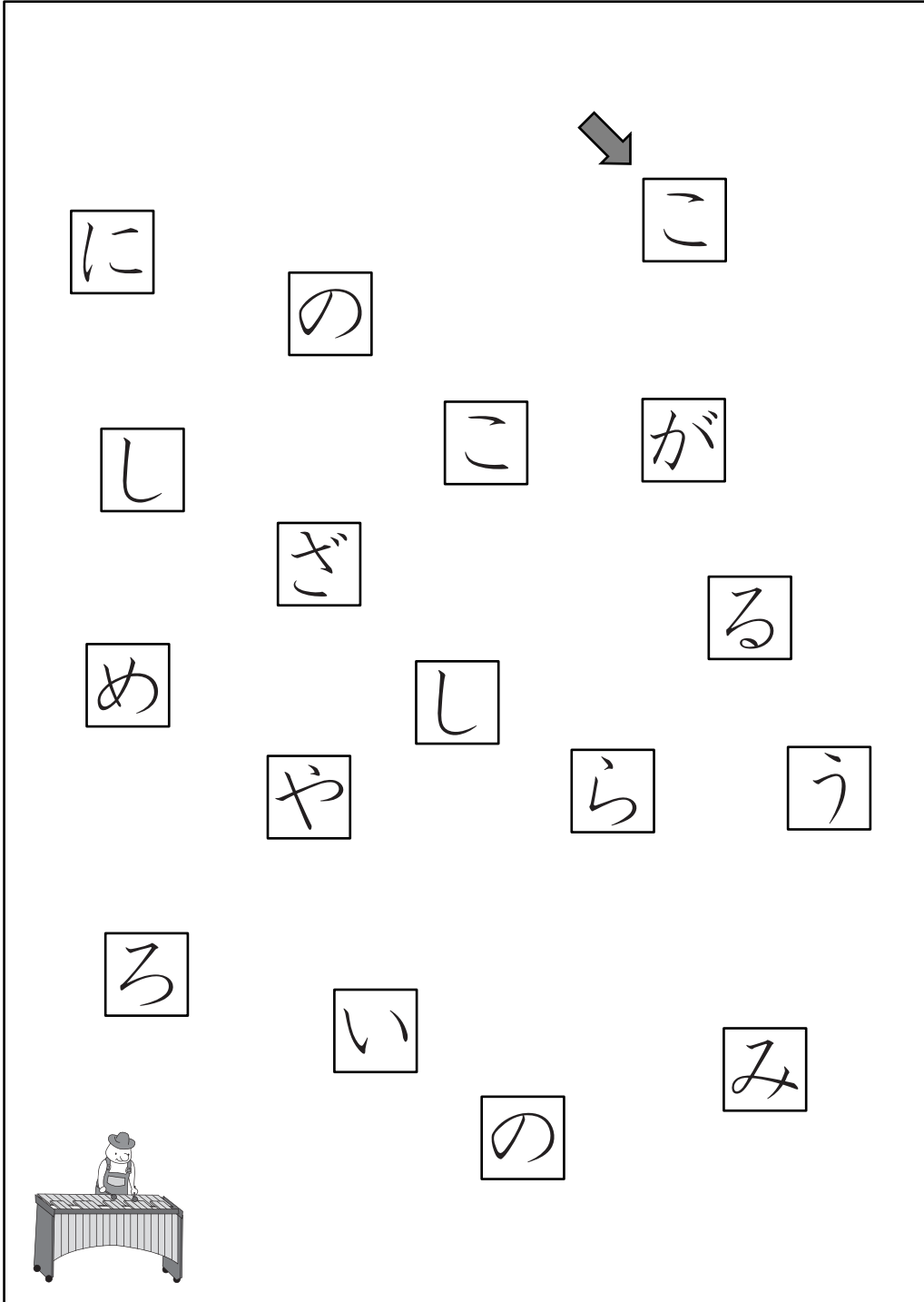
うまそうな・・・

ロコモ 2 - 13

なまえ

せん
線でむすびましょう。

こがらしや……



口口モ 2 - 14

なまえ

□の中に文字をいれ、俳句をつくりましょう。

ゆ

お

れ

も

き

え

て

ら

き

な

る

な

与

謝

蕪

村

口口モ 2 - 15

なまえ

□の中に文字をいれ、俳句をつくりましょう。

まそ
うな

ゆ
き

ふ
うわ

わ

かな

こ
ばやし
いっ
さ
小林一茶

なまえ

□の中に文字をいれ、俳句をつくりましょう。

こ

ら

し

め

し

に

こ

る

う
み

の

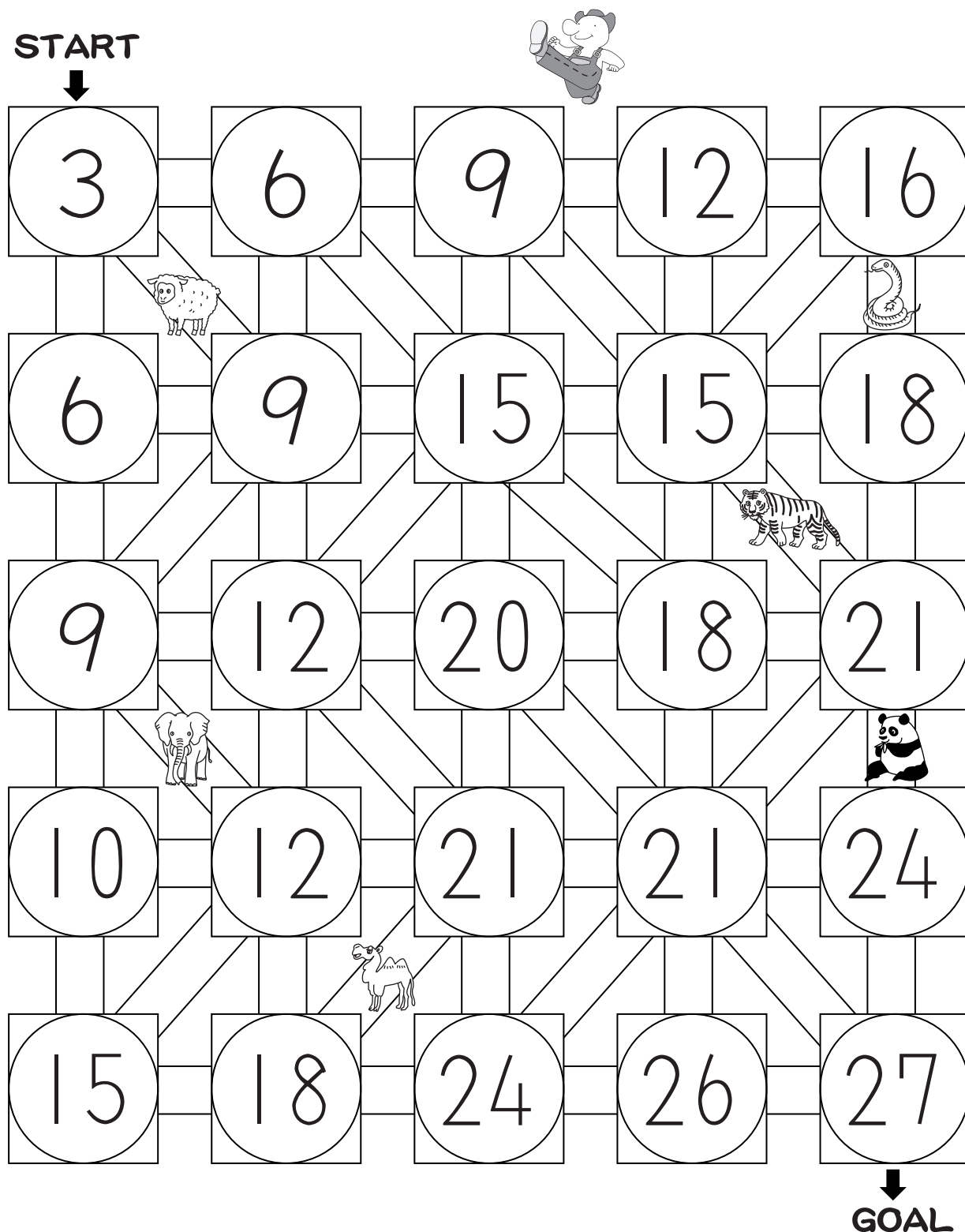
ろ

芥川龍之介
あくたがわりゅうのすけ

ロコモ 2 - 17

なまえ

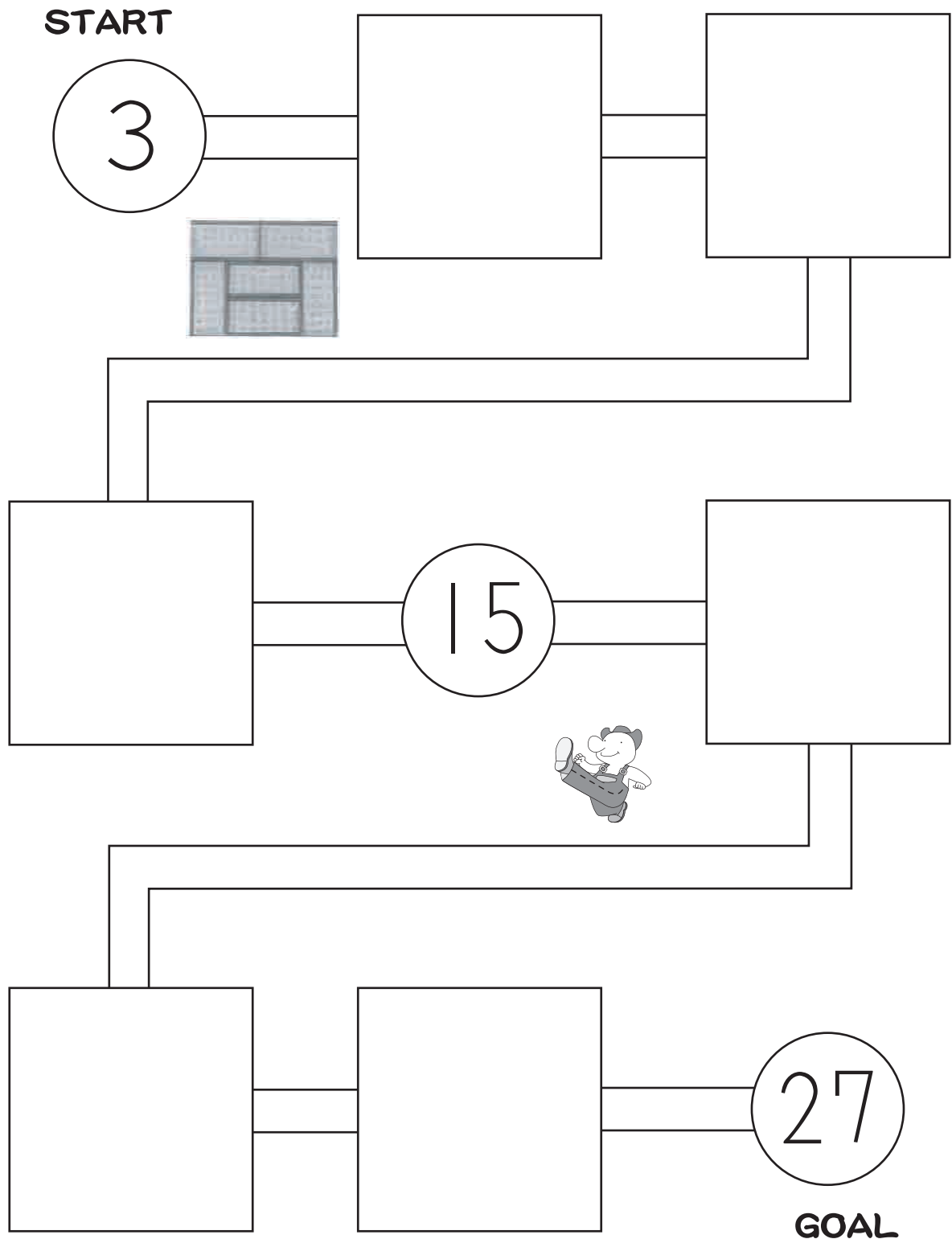
3 とびで、GOAL までいきましょう。



ロコモ 2 - 18

なまえ

あいている□の中なかに3とびで数字すうじをかきましょう。



口コモ 2 - 19

せん
線でむすびましょう。

なまえ

むし
虫

あ
を合わせる



くち
口

にご
を濁す



ちゃ
お茶

がいい



口コモ 2 - 20

なまえ

せん
線でむすびましょう。

むし
虫がいい



ちゃ にご
お茶を濁す

くち あ
口を合わせる

みんなおなじです



かって
勝手だなあ



まあこんなところかな



せん
線でむすびましょう。

くち あ
口を合わせる

いいかげんなその場し
のぎでごまかす



ちゃ にご
お茶を濁す

なんにん
何人かでいうことを
いっち
一致させる



むし
虫がいい

じぶんにつごうのよいよう
にばかりかんがえる



なまえ

下^{した}から選^{えら}んで慣^{かん}用^{よう}句^くをつくりましょう。

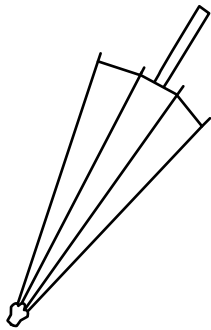
を^{にご}濁す

が いい

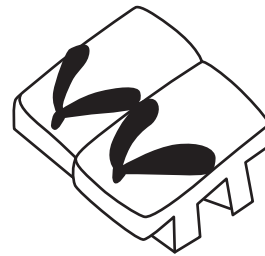
を^あ合わせる

くち おちや むし

知らない^し町^{まち}まで飛^とばされたごんべえは、何^{なに}を
 売^うるお店^{みせ}で働^{はたら}きましたか。



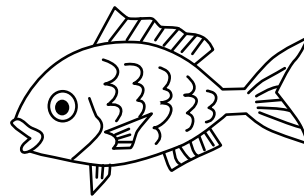
か さ



げ た



ぼう し



さ かな

いけ 池からあがったごんべえは、きものなかから100ぴきのどじょう^でが出てきて、どうおもいましたか。



- 1 今度はきっと鴨^{かも}を100羽^わつかまえるぞ。
- 2 今度^{こんど}からはどじょうをつかまえよう。
- 3 もう狩^かりはこりごりだ。

口コモ 2 - 25

なまえ

せん
線でむすびましょう。



つきみ
月見れば
ちちものかな
千々に物こそ悲しけれ



ひとめくさ
人目も草も
かれぬおもえ
かれぬと思へば

あき た
秋の田の
お いお とま
かりほの庵の 苦をあらみ



ころもで
わが衣手は
つゆ
露にぬれつつ

やまさと
山里は
ふゆ さび
冬ぞ寂しさ まさりける



お
なほあまりある
むかし
昔なりけり

ももしきや
ふる のき ば
古き軒端の しのぶにも



み ひと
わが身一つの
あき
秋にはあらねど

口コモ 2 - 26

なまえ

せん
線でむすびましょう。

あき た
秋の田の
かりほのお いお とま
かりほの庵の 苦をあらみ

み ひと
わが身一つの
あき
秋にはあらねど

ももしきや
ふる のき ば
古き軒端の しのぶにも

ひと め くさ
人目も草も
かれぬとおも え
かれぬと思へば

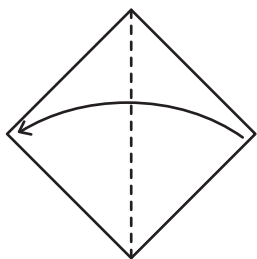
つき み
月見れば
ち ち もの かな
千々に物こそ 悲しけれ

ころもで
わが衣手は
つゆ
露にぬれつつ

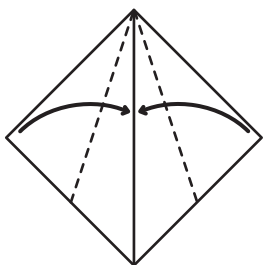
やま さと
山里は
ふゆ さび
冬ぞ寂しさ まさりける

お
なほあまりある
むかし
昔なりけり

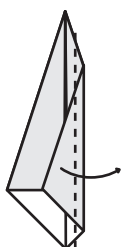
《ロケット》



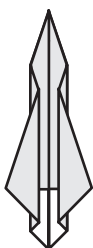
1 さんかくに おる



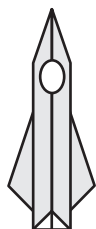
3 まんなかの せんぶぶん
に あわせて おる



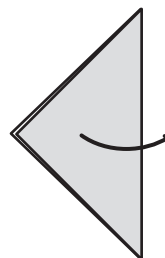
5 おりせんより ずらして
そとがわに おりかえす



7 うらがえす



9 まどを かいて ロケットの
かんせい



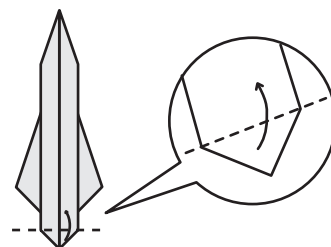
2 もとの かたち に ひらく



4 まんなかの せんよりも
ずらして たにおりする



6 はんたいがわも 4と5と
おなじように おる



8 したを さんかくに おる

